

## 30年越しの宿題から

「地域活性化」という個人的にはたいへん懐かしい響きのあるテーマをいただいた。実はもう30年も前、博士課程の院生時代にこの用語でたいへん悩んでいたことを思い出した。当時はパソコンの普及が進み、土地利用や交通の将来を予測するためのいわゆる「数学モデル」の構築が各所で取り込まれるようになった時代で、私もその分野の片隅で細々と作業をしていた。当時の指導教員からいただいたお題は、モデル化を通じて斜陽化が進む某都市圏を活性化するための方策を示せないかというものである。一応、予測モデルのようなものは曲がりなりに何とかできた。しかしそこではたと止まってしまったのである。どうなれば地域活性化したといえるかが考えれば考えるほどよくわからない。何か指標があればということなのだろうが、果たして総生産が増えればよいのか？、いや人口増加を指標とすべきか？、それとも小売業の売り上げか？、もしくは人通りの多さだろうか？、結局幸福じゃないの？、しかしそれをモデルに入れられないよね、などといったあたりで議論のお茶を濁したような記憶がある。思えば30年越しの宿題である。しかし、時代を経て周囲を見渡してみても、当時以上の議論がなされているとも思えない。

近年は人口減少が進む中で、自治体の人口を増やすことがすなわち地域活性化だと思われる

節もある。ちなみに私の住んでいるつくばエクスプレス沿線がこの人口増という観点ではすごいことになっている。茨城県内のどの市町村も人口減少している中で、2005年に開通したつくばエクスプレス沿線の3市のみが圧倒的な人口増加を見せているのだ。沿線では過去の一般的な鉄道整備と異なり、土地利用・交通一体化を念頭に、各駅前にセットで区画整理を通じた開発用地が提供されている。そこにマンションがどんどん建設され、東京への通勤者が大量に流入している。交通インフラ+駅周辺のセット整備というお手本のような取組みがこの人口増を加速させている。過去にはきちんとできていなかった土地利用交通一体整備が進められたことはすばらしい。ただ、これでいいのだろうか？

ゆったりと幸せな気持ちで乗れたつくばエクスプレスがいつの間にかぎゅうぎゅうに混雑してしまった問題はさて置くとしても、正直なところこのような人口増によって地域が活性化したという実感はあまり持てないのである。むしろ不便なりにも独立した研究学園都市としての個性を有していたつくば市が、個性のない単なるベッドタウンの一つになっただけのことではないのか。できてしまうと便利な鉄道が手放せないくせに、一方でそのような勝手なことを思ったりもするのである。

そのような状況の中で、先日ご縁があって久し

筑波大学 システム情報系 社会工学域 教授

たに ぐち まもる  
谷 口 守



ぶりに姫路市を訪れる機会があった。お城がリニューアルされ、また駅前の歩行者空間が整備されて都市としての魅力が高まっているとのうわさはかねがね伺っており、それを自分の目で確かめたかった。実際のところ、駅前が公共交通空間として様々な制約の中で上手に再生されており、見違えるようなスペースになっていた。国内のみならず海外からの観光客も増えている様子で、一連の思い切った都市整備プロジェクトを通じて地域が元気になっているのはよくわかる。このところいくつか都市を見た中で、この活性化という用語が一番あてはまりそうな感じがした。しかし、この空気感是指標で捉えられるのだろうか？そして整備をしたから活性化したといえるのだろうか？

そう思ってあたりを見渡してみても、一つの事に気が付いた。現在どこのまちでも売れるからといって各所に乱立しているタワーマンションがどこにも見当たらない。かつては大学で都市計画を研究・教育されていた石見市長に直接お話を伺ったところ、歴史的都市であるためきっちりコントロールをかけておられるとのこと。時間をかけて、全体がよく考えられているのである。自分のまちはどうあるべきか、そのために何を行って何を行うべきでないか。当たり前の事ではあるが、そのことが見識あるリーダーシップのもとできちんとおれずに遂行されていることが活性化の

前提条件といえそうだ。そしてそれはやっぱりつまらない指標だけで測りきれものではない。昨今はやりの「規制緩和」さえすれば活性化するはずといった思考停止した紋切り型の議論も、この現実の前では全く説得力を持たない。

いくつかの成功事例を見る限り、「その場所の持てる力を十分に発揮できるようにする」ということがどうやら活性化がかもす空気感であり、本質であるようだ。その実現のためには、必然的にその場所それぞれでどうすべきかを考えているか？、ということが必須となろう。それは「規制」とも「規制緩和」とも次元の異なる「計画」という行為を他都市のコピペではなくそのまちで本気で行うことである。ちなみに突き詰めれば、「計画」とは何を優先し、何を優先させないかをはっきりさせる行為である。もちろん何かを優先させないということを伝えることは通常反対が伴うものである。そのことを論理的に勇気をもって示せるか、そしてそれが本当に実行できるかということが特にこれからの人口減少時代において地域活性化における重要な要素となろう。変わりゆく時代の中で、専門家の目が入ったしっかり練られた「計画」の元、首長のリーダーシップが今まで以上に求められるようになることは間違いない。